

令和6年2月8日

令和5年度 学校図書館活用推進校事業 実践報告

新潟市立木戸中学校
図書館教育部

学級数	生徒数
(普通) 15	(※R5.4.3) 478人
(特別支援) 4	

蔵書冊数 14,381冊 (令和5年12月末現在)
貸出冊数 3,066冊 (一人平均6.4冊)

昨年度と比較し、1人当たりの平均貸出数は減少している。教室棟最上階の4階端に図書館が位置していることもあり、同階の1学年の利用度は多いが、階下となる2、3学年は足が遠のく印象を受ける。また、学年が進むにつれ、朝読書で利用する本を自宅から用意し、自分の好きな本を読む生徒も多い。

こうしたことから、学年が進むにつれ利用度が低下する傾向が見受けられる。これ以外の複合的な要因もあるが、ただ一方で貸出数が100冊を超える一部利用者もいる。利用者層の2極化が顕著である。

I. はじめに

本校図書館教育の目標

- 1 目標
 - ・読書を通じて考えを深め、深い教養を身に付ける。
 - ・読書を通じたコミュニケーションを図る。
- 2 目指す生徒像
 - ・読書を通して想像性や感受性を養い、人や物に積極的に関わり行動する生徒。
 - ・資料を有効に活用し、自ら考え課題を解決する生徒。
- 3 指導方針
 - ・生徒が主体的に学べるよう環境整備する。
 - ・課題に粘り強く取り組むことで、学ぶ楽しさや成長を実感し、達成感が得られる学習場面を設定する。
 - 1) 各教科・領域との連携を深め、幅広い分野からの資料収集を行い、蔵書の充実に努める。
 - 2) 利用指導等の取組を通じ、情報の探し方、資料の使い方を指導する。
 - 3) 調べ学習の資料充実のため、公共図書館との連携を深める。

4 具体的実践事項

I. 読書センターとして

・朝読書を実施

朝会、定期テスト以外の日は毎日実施している。(朝会、定期テスト前は除く。)

また、本を忘れた生徒のため学級文庫を設置し、学年ごとに色分けしたボックスで視覚的にもわかりやすくしている。図書委員で管理をし、月1回のサイクルで交換をしている。



・オリエンテーションの実施

新一年生を対象として図書館オリエンテーションをクラス単位で行い、利用方法の説明ならびに図書館の蔵書を知ってもらう機会とした。今年度からの試みとして、プロジェクターを使い iPad で作成したプレゼン資料で説明を行った。

・「転入の先生おすすめ本」を図書館内で展示紹介

転入された先生に依頼し、おすすめの本を紹介してもらった。図書館だよりでも同内容を記事にしたところ、「〇〇先生のおすすめ本はありますか?」と探しに来る生徒の姿もあり、評判は上々だった。当校に所蔵がない本は新潟市立図書館を利用し、できるかぎり実物を展示するよう努めた。



II. 学習センターとして

・授業で活用する参考資料の提供

年間指導計画をもとに、教科担当者が求める資料を用意。

(例)

国語…辞典の活用、「大人になれなかった弟たちへ」、故事成語、「盆土産」、「論語」①

美術…関連本のコーナーを設置②

総合…

1 学年：身近な職業調べ③

職業や働くことに興味を抱くような資料をまとめて、視覚的にもわかりやすいように別置している。

2 学年：修学旅行事前調べ④

生徒が利用する渡り廊下に特別展示し、活用できるようにした。



III. 情報センターとして

・コーナー展示

①SDG s コーナー展示

一つのターゲットに2, 3冊の関連資料を用意し、手に取りやすいようにフェイスアウト展示を行っている。

②部活動関連本の展示

当校で活動を行っている部活を中心に、関連する本を特設コーナーにして紹介している。春のオリエンテーション後の初めての貸出しでは、このコーナーから本を借りる生徒が多数いる。

③進路、入試関連本の展示

『朝日中高生新聞』の記事をピックアップするなど、入試関連情報を展示している。受験生である3学年以外の生徒もこのコーナーに興味持ち、入試問題を手に取ることも多い。

④図書委員による関連本の紹介

当校では生徒会を中心に、学内でSDG s への理解を深める取り組みを行っている。図書委員会では、月ごとにターゲットを設定し、各自が選んだ関連本のPOPを制作した。

・図書委員会の読書推進活動

①図書の貸出（毎日・昼休み）

②新聞を廊下に掲示（毎日・昼休み）

③SDG s に関連した図書の展示、POP作成

④読書週間のイベント運営

・クイズ・福袋

⑤特設コーナー展示準備（メディア化された書籍紹介）

⑥季節の掲示物作成、図書館装飾

⑦学級文庫の点検



IV. 地域連携

・読み聞かせ

特別支援学級で週に1回実施。今後は地域ボランティアによる読み聞かせを行う方向で、現在地域コーディネーターが連絡調整している。

V. 小中連携

・「図書館だより」共有

ロイロノートの資料箱機能を活用し、各校の図書館だよりを相互共有できるようにした。読書傾向の把握、また各図書館の特徴を相互理解する資料として役立てた。

・「キーワードくん」の活用

単元で扱う分類を分かりやすく検索語一覧にして表示し、調べもの学習に活用できるようにした。3校で統一した「キーワードくん」様式を導入した。

・小学校6年生見学で、図書館案内

図書委員で作成した小学生向けの図書館紹介便りを配布した。また、今年度は図書館内を自由に見学できる時間を設け、中学入学後の生活を疑似体験してもらうことができた。

VI. 学習・情報センターとして～授業の実践報告～

2 学年国語の授業より

単元名「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」

単元の目標

- (1) 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。
- (2) 目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理することができる。
- (3) メディアを生活に役立て、思いや考えを伝え合おうとする。

授業の流れ

第1次 情報メディアを比較し、それぞれの特徴を捉える。

第2次 メディアを活用して、iPad でミニ新聞を作成する。

第3次 ミニ新聞を発表する。振り返り。

生徒のようす

- ・調べ学習のときに、自分の iPad を使って調べ物をする生徒が圧倒的に多かったが、開始して5分程度たつと、本や雑誌を手にとる生徒が出てきた。
- ・初めて雑誌を読んだ生徒がいた。
- ・新聞を活用した生徒は少なかった。

生徒の振り返り

- ・メディアを使い分けるときは、根拠が必要な時は書籍を使い、速報性のある話題を扱う時にはインターネットを使うなど、課題にあったメディアを選ぶことを意識するとよいと思いました。また、メディアの特徴を理解し、その特徴をうまく利用することを普段から意識したいです。
- ・それぞれのメディアのよいところが活かせるようにすることを意識したらよいと思います。今までは信頼性の低いインターネットを信用しすぎていたので、これからはインターネットの情報をよく考えて本当か嘘か見極めることを意識していきたいです。

5 成果と課題

【学びの場として】

図書館で授業を行うことで、さまざまなメディアを実体験できたり、必要なメディアを選択できたりする点で学習意欲を引き出しやすくなったように思えた。学校図書館に詳しい学校司書と連携し、より効率よく図書館を活用していきたい。

【成長の場として】

- ・図書館の開館を楽しみにしている生徒にとって、心休まる憩いの場となっている。
- ・図書委員の中には、自分のやりたい企画をしたり、当番や仕事を積極的に行ったりと、図書館を通してやりがいを感じることができた生徒もいた。

【小中連携】

- ・小学生に中学校の図書館を知ってもらう機会ができた。
- ・小学校、中学校でそれぞれ予定が異なるため、打ち合わせの時間を確保することが難しい。